

令和7年度教育事業 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」
「地域探究オリエンテーション合宿 羽咋高校 地域探究トライアルキャンプ」

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」とは

国立青少年教育振興機構が令和2年度に新設した「全国高校生体験活動顕彰制度『地域探究プログラム』」は、高校生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度である。取組を段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そしてステップⅡ「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行う。

1 趣 旨

羽咋高校第1学年生徒が、羽咋市を中心とする地域社会づくりや地域が抱える課題解決などに関するフィールドワークを通して、課題発見・解決能力の基礎を身に付け、今後の探究活動に活かすとともに、地域や社会の将来を担う人材の育成を図ることを目的とする。

2 実施日・参加人数

(1) 期 日

- ① 令和7年7月28日（月）～7月31日（水） 1泊2日
・羽咋高校 前半 66名
- ② 令和6年7月24日（水）～7月25日（木） 1泊2日
・羽咋高校 後半 86名

(2) 研修内容及び講師

・幸福観想コース	たきの一ほ一む風和里 羽咋高齢事業部長兼管理者	森川 みなこ 氏
	千里浜町総区長サロンおっちゃん家代表	富山 一夫 氏
・自然共生コース	羽咋市役所総務部まちづくり課長	崎田 智之 氏
	石川県希少種保全推進員	西屋 馨 氏
・文化伝承コース	羽咋市歴史民俗資料館 学芸員	中野 知幸 氏
	菅池獅子舞保存会	横山 孝信 氏
	はくい獅子舞保存活性化実行委員会	諏訪 雄士 氏
・交流創出コース	羽咋市役所総務課まちづくり課係長	松岡 正樹 氏
・健康躍動コース	石川県立看護大学教授	垣花 渉 氏
・歴史国宝コース	妙成寺執事	大森 教生 氏
	羽咋市歴史民俗資料館	中野 知幸 氏
・防災減災コース	石川県防災活動アドバイザー	松井 喜憲 氏
	内灘町町会区長会副会長 宮坂区長	坪内 健一 氏
	羽咋市柳田町眉丈団地	釜谷 外和 氏
		古瀬 巖 氏

(3) 日程

時 間	7月28日(月)、7月30日(水)	時 間	7月29日(火)、7月31日(木)
8:15 8:25	学校集合 学校出発	6:00 6:30 7:00 7:35 8:30	起床・洗面・着替え 清掃 朝のつどい(かんぽ広場) <朝 食> 宿舎点検
9:00～ 9:30	開講式 (日程及びFW先の確認等) ※荷物移動等も含む	9:00～ 11:50	フィールドワーク② 「地域課題の探究」
10:00～ 14:30	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」	12:00	<昼 食>
		13:00～ 13:50	講義・演習③ 「行動計画の基礎」 ※発表資料作成
		14:00～ 15:20	
15:00～ 15:50	講義・演習① 「地域理解」	15:30～ 16:20	発表① (グループ発表)
16:00～ 16:50		16:30～ 17:00	閉講式 実践活動のためのガイダンス
17:00 17:30	夕べのつどい(かんぽ広場) 入所OR(施設の使い方)	17:20	バス乗車 帰校 解散
17:40	<夕 食> ベッドメイク・休憩		
19:00～ 19:50	講義・演習② 「課題解決の基礎」		
20:00～ 20:50			
21:00 22:00 22:30	入浴 就寝準備 消灯・就寝		

(4) フィールドワーク概要

- 幸福観想コース 風和里の取組について聞き取り、地域の高齢者の現状について話を聞く。
風和里を利用する高齢者及び地域の高齢者との交流を通して、生きがいの
ある地域社会のあり方について考える。
- 自然共生コース 害獣生物を活用したり調理したりする取組や生物との共生についての話を
聞く。実食体験や調査活動を通して、郷土愛を育むとともに、共生のあり方
を考える。
- 文化伝承コース 羽咋市の獅子舞文化及び獅子舞保存活性化実行委員会の取組を聞く。
羽咋市歴史民俗資料館及び深江八幡神社を見学し、獅子舞や祭りの意義を
考える。
羽咋市の菅池地区の獅子舞の現状を知り、地域活性化について考える。

- 交流創出コース 羽咋市をはじめ過疎化が進む能登において、駅前周辺が変容した理由を考えながら、賑わいの創出により暮らしを豊かにする取組について聞く。関連施設の見学、地元商店街の事業者との交流を通して現状を知り、地域活性化について考える。
- 健康躍動コース 健康について話を聞いたり、スポーツ体験を通して健康の良さを体感したりする。FWを通して、スポーツを通じた地域活性化について考える。
- 歴史国宝コース 妙成寺を見学し、国宝認可に向けた取組を聞いたり、観光財産としての妙成寺の位置づけをつかんだりする。
妙成寺を広く周知するための地域活性化について考える。
- 防災減災コース 防災・減災に関する話を聞いたり、関連施設の見学、地域の町内会長等と交流したりして、課題や現状を知る。
能登半島地震を受けて、今後同様の災害に対し、柔軟に対応していくまちづくり、地域の住民同士をつなぐまちづくりのあり方について考える。

3 成果と課題

本事業に参加した生徒から、事業での学び等について事後アンケートを行った。

(1) トライアルキャンプでの学びについて（生徒の記述より一部抜粋）

- ・現状から自分たちで問いを立てて、その原因を考え、解決策を出すというのを何回もやったことによって、自分たちだけで問題を立てて解くということがより意味の深いものになった。
- ・フィールドワークを通して地震の恐ろしさやその防災のために心がけるべきことを被災者本人の生の声を通して知ることができた。このような経験は、貴重なものだし、だからこそ活動に積極的に参加できて、たくさんのことを学べたと思う。
- ・人と生き物が共生していくことの難しさを知れた。特に、いのしし問題では目的を失わず活動を進めていく難しさに直面し、深く考えるきっかけになった。

(2) 今後取組みたいことについて（生徒の記述より一部抜粋）

- ・私たちの住んでいる地域の問題点を解決するための力や、私たちの力でどれだけ問題を解決できるのかを考える力が付きました。・また、価値観の違ういろんな人たちと、答えのない問いについて深めていきたい。
- ・今回のトライアルキャンプを通して、自分たち（高校生や小中学生）が話すだけで高齢者はとても喜んでくれると分かった。自分自身もそれが嬉しかったので、このコースではなかった人や、高齢者との関わりが少ない人にも、福祉に関わり、元気を届けることが出来ることを体験したり伝えたりできるのだと知らせたい。
- ・海にいる生き物がのびのび暮らせるようにゴミなどを減らす活動に取り組みたい。

(3) 事業における成果と課題

① 成果

- ・羽咋高校の探究学習担当教員と連携を密にとり、細かな打合せにも参加してもらうことで講師と教員が事業のねらいを共有するとともに、生徒のより主体的な学びにつながった。、R6の成果・課題を活かしてR7は「自分ごと」をキーワードに展開したことも良かった。

- ・交流の家バス1台と羽咋高校バス2台でFW先を移動した。天候にも恵まれ、予定通り展開することができた。軽微な変更については、その都度、本キャンプに携わる全ての教員と当施設の担当でリアルタイムに共有して対応できた。



② 課題

移動に関わる運転手、交通手段の継続的な確保が必要である。担当教員と輸送計画を立案し、充実したFWを展開できるようにしたい。

